

2024年10月2日

YACかわら版 504

キューポラ

マシュー・ドミニク
宇宙飛行士

<https://x.com/dominickmatthew/status/1839680411665912280>

もうすぐ地球に帰ります。家族や友人とまた一緒にいられるのが楽しみです。でも、地球が毎日見せてくれるものを撮影するためにキューポラに立ち寄ることができなくなるのはさびしい。

クルー8ドラゴンでISSに乗り組んだ、マシュー・ドミニク宇宙飛行士の「X」投稿から、ISSのキューポラのことに関心を持ちました。JAXAのウェブサイトではキューポラについて次のように説明しています。*一部引用

<https://humans-in-space.jaxa.jp/glossary/>

2010年2月に、スペースシャトル「エンデバー号」によるSTS-130 (20A) ミッションでISSに打ち上げられました。キューポラは、7枚の窓と国際宇宙ステーション (ISS) のロボットアームの操作盤などを備えた小型ユニットです。船外活動や、宇宙機の接近および分離時のモニタ場所として使用されます。また視野が広いため、地球や天体などの観測にも使用することができます。

各種モニター画面は重要ですが、直接宇宙船外の絶景の地球を視認できることはすごいですね。考える根っこを豊かに育てられる宇宙飛行士の方々が、考える翼をどのように巡らせておられるのか関心がありますね。

*画像は全て©NASA

ここにキューポラがあったのですね

キューポラ：屋根の上に設けた半球天井
きゅぼらん：「いもの 鑄物のまち」川口を象徴する溶解炉「キューポラ」がモチーフ

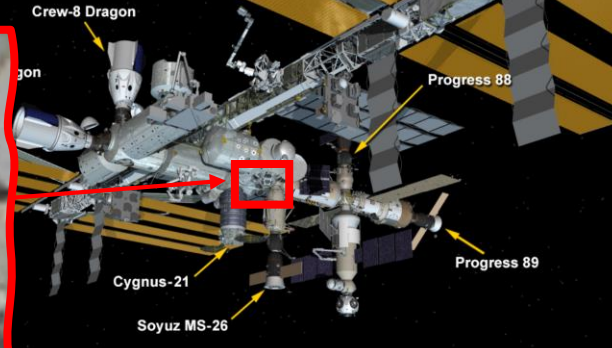


©川口市

この写真では窓にはカメラがセット

直径80cm

内側からの天井を見上げます



船外活動と
キューポラ

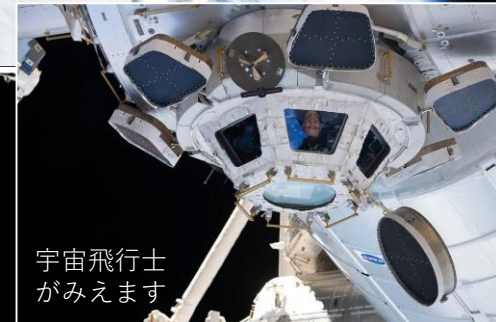
6枚の側面と天井の窓は、慎重に設計・工作されています。



窓のフタ? は厚い!

窓には多層シャッターが付いている

窓を微小隕石やデブリから保護



宇宙飛行士がみえます